

平和がいちばん

2014年4月15日
第82号
平和で豊かな枚方を
市民みんなでつくる会



やんちゃ子キャンパーハンドベルコンサート(4・2 香里ヶ丘教会)

図書館などの運営を「指定管理者」に委託するのは反対です

この4月から「中核市」になりました。この「中核市」は地方分権を進める目的で制度化されています。これまでは大阪府が行っていた行政事務の一部が移譲され、市役所で行うこととなります。主に「保健所」に関するものが多く、感染症の予防対策や飲食店等の営業許可を市で行えるようになります。その他、福祉や環境に関する事務の一部も市役所で行います。市役所で手続きできることが多くなり、病気予防等が身近なところで行われるのは前向きなことです。それに伴い市職員が増えますが、地方交付税も増額されるため、差引きで約2億6千万円のプラスになるとの試算です。これはしっかり検証する必要があります。

さて地方自治法の大規模な改正が行われたのが1999年でした。この改正によって国と地方の関係は「上下・主従」の関係から「対等・協力」の関係に変わったとされています。国の意向に左右されず、縛られず、地方自治体の判断が尊重

されるのが本旨です。「中核市」もその一つの制度であり、今回の移行は自治の範囲が拡大したと捉えることができます。「自治」の基本は自分たちで議論し判断していくことです。

中核市になって自己判断ができる分野が広がったにもかかわらず、市民の要望に対して相変わらず「国や府の動向を見て」などと言う主体性がない対応はふさわしくありません。そして市民の創意工夫や叡智が蓄積されている生涯学習市民センター(公民館)や図書館等の「市民自治の砦」を活用し、その運営を充実させていかなければなりません。いま以上に市民に関するシステムにしていくことが大切です。「効率化」だけを名目にした「指定管理者」などに運営を任せていく動きなどは、市民自治の肝心な機能を丸投げすることにも似た愚策です。市民自治が機能する町にしていきましょう。

わわわのわ

ひとは いくつになっても
変わり 成長することができる

フィリピンの子ども達の支援を続ける

鎌田 恵津子さん



(4月8日 自宅前で)

鎌田さんは、昨年、31年間の中学教員生活にピリオドを打った。そしてヘルパーの仕事をはじめた。しかし料理が苦手なため、グラタン料理など思わぬ利用者の要望に、「毎回ドキドキ、スリリングです」と楽しそうに話している。

彼女の父親は、自衛官。伊丹駐屯地の中部方面総監部の官舎で育ち、遊びは演習場での「かくれんぼ」だった。朝夕「君が代」が流れ、「日の丸」を毎日のように目にし、夜の就寝をつげる消灯ラッパを聞きながら育った。「自衛官の制服」への抵抗感はなく、「自衛官の家族という特殊な感覚が育っていた」と振り返っている。『君が代』を歌ったら、きっと上手です。“さざれ”と“石の”の間にブレスを入れるような歌い方はしないよ」と笑う。

大学生になり、在日朝鮮人の友達や様々な立場の人との出会いがあり、社会の仕組みや矛盾に直面する。父が自衛官という重圧があったが、友人の「父親を客観的に見たら」という助言で、彼女は自立の方向に歩みだした。その時、中学、高校時代に、教師が社会的な問題や生き方を語り、単なる暗記やノウハウでなく、「アフリカは何故暗黒大陸？」など、あらゆることに疑問を持ち、考えさせる授業を受けていたことで、物事を科学的にみる思考方法が身につけていたと気づかされたという。

教員になり、荒れたり、自分を追い詰める子ども達もたくさんいたが、お互いが表面だけでなく関わりあうクラス作りをめざしてきた。そんな時、卒入学式に「日の丸」、「君が代」が強制的に取り入れられてきた。職員会議は無視され、生徒が主役の保護者と向き合う対面式を、命令一つで「日の丸」を掲げた壇上式に変えてまで進めるやり方は許せなかったという。「単なる旗や歌ではなく、これを通して、教師も学校も大きく変えられました」と語っている。

彼女は20年ほど前からフィリピンの貧困の子

ども達の教育施設を支援している。「物があふれ、学校に行ける北（先進国）の子ども達が、希望を無くし自殺をする。一方、学びたい、生きたいと思いつながら、飢えや病で死んでいく南（アジア、アフリカ）の子ども達。フィリピンに行き支援する教育施設を訪問し、貧しくても目が輝き、希望を語る子ども達に触れた時、自分を好きになること、自分を好きになれる人間関係が大切だと実感しました。私は思春期の頃は自分が嫌いで、ちょっとしたきっかけで不登校や自殺もあったかもしれない。支援をしていたつもりが、自分が励まされていました」と語る。

高校の同窓に奥克彦さんがいる。イラクで射殺された外交官。彼はラグビーで培われた「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という精神でイラク復興に関わり、殺された。イラクの子どもの目の輝きに希望を見た彼の思いに触れて彼女は衝撃を受けたという。その時、国は真実を伝えなかった。何故奥君はイラクで死ななければならなかったのか？ 今でも答えは出ない。「アメリカのイラク攻撃を容認していった重苦しさは、原発反対者に対するバッシングと同じではないのか」と静かに語っている。

今は、父親の介護をする母親を助けている。「生き方の違いから若いころは何度もぶつかり、胃潰瘍で入院させてしまった父は、トイレ介助で『まわれ右』という、体が動くのですよ。自衛隊の訓練が身につけているのですね。若い時、人に深く関わるのは苦手と考えていたので、ヘルパーや介護ができることは喜びです。人は変わることができるのですね」と語っている。また、「弟の塾を手伝っていると、子ども達が勉強のどこにつまずいているかが分かるのです。ちょっと関わることで子どもが学ぶことが楽しくなるきっかけ作り。そんな仕事ができたらいいですね」と語る彼女。早期退職した彼女の「道」は、まだまだ続く。「夢」は実現できると信じています。

取材・文 おおた幸世

投稿

生涯学習市民センター（公民館）が大変だ！！ 鈴木 めぐみ

図書館と公民館の併設施設の運営に今、指定管理者制度が入れられようとしている。経済的理由や効率的運営の名のもとに民営化しようというのだ。

かつて公民館や図書館は「自立した市民になるよう」情報公開や学習の場を提供してきた。市民と職員が共に造り上げてきた枚方市民が誇れるものだった。それを先ず有料の貸館とし、そして民営化と筋書き通りの道を行こうとしている。(何かなさけない!)。職員自ら民営化がいいと言うのは、職員は何なのか？ 議員も自分を何だと考えているのか？

現在センターには「活動委員会」があり、年間行事計画を立て、実施している。有料の中にも子育てグループには使用料減免が適用されている。そういうことは今後どうなっていくのか？

民営化の次は駐車場有料化に続く道となるのか。市は今年度中に結論を出そうとしている。

皆さん、図書館・センター問題を見守ってください。

投稿

福島の子ども達を招いたキャンプに参加して 村上 頌子

昨年の夏「ひらば一のプールに福島の子ども達と一緒にしてもらえませんか」「いいですよ」。ここから「やんちゃっ子ひらかた」のキャンプへの私の関わりが始まりました。

今年の春は実行委員会の会議にも出席して、会の様子を知りながら、今迄キャンプに関わってこられている方々の顔と名前を覚えながらの参加です。

今回宿舎を提供して下さった香里ヶ丘教会で子ども達を3月29日に迎え、4月3日に送り出す迄、みんなで企画を練り込み、若い人から高齢の人までたくさんの方々の参加がありました。

福島から来た子ども達（小学校1年から高校1年まで9名）とお母さん達（2名）に、私にできる事はなに、なにができるんだろう。そして託されたグループの中で、私は今グループの人達とどう関係を結んでいけばいいの、何をしていけばいいのかと自分で考えながらの楽しい日々でした。

少し緊張しながら子ども達と桜満開の清水寺や鴨川に出かけたり、昼食作り、一泊宿泊も経験しました。

たくさんの方々のキャンプへの参加、カンパ、食材やバザー物品の提供、布団の運び込み、食事作り、お風呂屋・太陽が丘・京都駅への車のバスでの送迎、「みなよし」での語り、ハンドベルの演奏、そして子ども達やお母さんとの関わり、一人ひとりの自分にできる事が集まったのキャンプを実感しました。

香里ヶ丘教会牧師の日曜礼拝の話の題は「微力ではあっても無力ではない」でした。微力も集ま

れば大きな力となる事をキャンプを通して実感として学ばせてもらいました。

キャンプの後、会う人、会う人に伝えていきます。

「福島の子ども達のキャンプに参加してきたよ。学校は除染しているから遊べるけど、通学路の草はさわれないんだって」。香里団地の街路樹の下の草むらで4年生の男の子達とお母さんが草をさわりながら“よつ葉のクローバー”をさがしていた光景を心に覚えながら話しています。

福島の話、放射能汚染の話のできる仲間を求めながら・・・



「市民の会」会員を募集しています

年会費 2000 円

- * この会報をお届けし、随時発行する「事務局通信」(FAX) もご希望により送信します
- * 会費はスタッフに直接渡していただいても結構です
- * 会報はご希望によりメール送信もします
＜郵便振替＞口座番号 00940-3-192938
平和な枚方をつくる市民の会

3月15日 学習会に参加 主催は平和と生活を結ぶ会と無防備地域宣言全国ネットで、テーマは「9条無効化による戦争国家を許すな!」。ジャーナリストで軍事評論家の前田哲男さんが講演された。安倍首相の「国のかたち=積極的平和主義」は国民を「物言えぬ羊」にかえる統制型国家で支配し、「日米同盟」の名のもと海外での戦争に自衛隊を使い、近隣諸国とのあいだに緊張関係をつくりだし、アジアの盟主を目指すものと規定された。そのために集団的自衛権行使を認め、事実上の改憲を進めようとしていると、安倍内閣の危険性をズバリと指摘された。

3月21日 「市民の会」総会 2014年度の活動方針の柱として「原発廃止・秘密保護法廃止・集団的自衛権行使容認反対の取り組みを継続し、来年の市長・市議選勝利を目指し、複数の候補者擁立を可能とする支持拡大、地域での新たな仲間を広げる取り組みをおこなうこと」を確認した。また、生涯学習市民センターと図書館の管理運営の民間委託について、市民の取り組みと共同して問題点の学習・市への要請活動など行うことも確認した。「平和と民主主義の確立、市民が主人公の枚方市を作り出す」決意を新たにした。

3月26日 議会最終日(詳細は、別紙議会報告を参照してください) 私は「一般会計予算案」「負担付き寄贈(美術館の寄付)の収受案」「枚方市議会基本条例案」に反対討論、「集団的自衛権の行使を容認する解釈改憲を行わないこと」を求める意見書に賛成討論をした。また、「秘密保護法廃止」「普天間飛行場の県内移設断念及び早期閉鎖・撤去」を求める意見書を共産党議員団と共同提案したが、少数否決だった。3月議会へ向けた秘密保護法廃止を求める意見書の採択の枚方市議会への要望書は49人の方から届いた。集団的自衛権行使容認反対を求める要望書も12月に約300筆が議会に届いた。6月議会では、さらに幅の広い取り組みを背景に、議会の流れを変えたい。

4月6日 解釈改憲反対は多数 朝日新聞は、秘密保護法成立後、全国108自治体で廃止・撤廃の地方議会の意見書が可決、凍結や慎重審議を入れると170議会で意見書が可決されたと報道。4月7日には、集団的自衛権行使容認反対63% 9条改憲は反対64%との世論調査の結果を朝日新聞は公表した。市民の声は、解釈改憲反対が多数であることが明らかだ。

同日 扇町公園で開かれた「守れ憲法! 秘密保護法をLOCK!」ロックアクションに参加、西梅田公園までデモに参加した。初めは人の集まりも悪いようだったが、デモ出発時、主催者発表で4000人まで増えた。

安倍の暴走を許さない声の高まりは、ここでも明らかだ。



金曜日行動で署名を訴える
(4月11日 岡東中央公園)

3月19日 3月分議員報酬から223,880円を大阪法務局に供託

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 松本 健男 (弁護士)
家高 憲三 (元教育長)
黒田 薫 (平和都市ひらかたを考える市民の会)
鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)
おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)
事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)



「会」のシンボルマーク
塔本賢一さん作

〒573-1197 枚方市禁野本町1-5-15-106 市民の広場“ひこばえ”

TEL&Fax 072-849-1545

毎月の配布を希望される方、または配布を希望されない方はお手数ですがご連絡ください。